新橋小学校
学校だより
令和４年５月 30 日
令和４年度　第３号

減らしていきたいもの

校長 西尾 琢郎

年度がスタートする4月、そして5月は、例年、本当に矢のように時が過ぎ去っていきます。学校の内外に咲く花々も、大げさに言えば日替わりのように盛りのバトンタッチを繰り返し、気が付けば次第に新緑が深まってきたのを感じます。自分の幼少期を振り返ると、決して草花に目を奪われるタイプの子どもではありませんでした（どちらかと言えば乗りものや機械好きの子どもでした）が、長じるにつれて身の回りの命の豊かな表情に惹き付けられるようになりました。

毎朝元気に登校してくる子どもたちも、今は友だちとのおしゃべりに夢中で、花々を意識することは多くないように見えます。それでも、知らず知らずのうちに身の回りの花の彩りを糧にし、いつの日かその素晴らしさに気づく日が来るのかも知れません。そんなふうに、子どもたちがいつ何時、どんなことから、どれほど豊かな気づきや学びを得ているかは、いつも私たち大人の想像を超えるものです。前置きが長くなりましたが、今回は、私が学校から減らしていきたいと思っているものについてお伝えしたいと思います。

新橋小学校に限らず、たいていの学校にはさまざまなルールがあります。そして、その多くには「学校には、学習に関係のないものを持ってきません」といった項目があるのではないでしょうか。私が減らしたいと思うものの一つは、実はこの「学習に関係のないもの」です。ルールをなくすのではなく、ルールに触れるものをどうすれば減らしていけるだろうか、を子どもたちと一緒に考えたいと思うのです。昔の人は言いました。「一木一草、師ならざるものはなし」と。私たち人間は、もともと、およそどんなものからでも学ぶことのできる存在です。さまざまな事物に、そんな謙虚な思いを抱き、また好奇心をもって触れ合うことができれば、本当は「学習に関係のないもの」など存在しないのかもしれません。

とはいえ現実には、見境なしにいろいろなものを教室に持ち込んで、授業中にいじったり、友達との間で取った取られた、壊されたなどのトラブルが起きたりすることも容易に想像できます。ですが、だからこそ、ただ好きなものを好きなように持ってきたい、というだけでなく、そうしたトラブルに、自分たち自身がどう向き合っていこうとするのか、そのうえで、その持ち物が自分の学びにどう関係するのかを説明できるかどうか。そこまでを、子どもたちにはしっかり考えてもらいたいと思うのです。トラブルを未然に防ぐため、禁止だけしておくのは簡単です。ですがそこで終わってしまっては、「自分で考え、行動する」力を育んでいくことは難しいでしょう。ルールそのものが問題なのではなく、何も考えず、それに従っている（あるいは破っている）という状態を課題と捉え、学年に応じて、息長く取り組んでいきたいです。ご家庭でもそうした話題について話し合ってみていただければありがたいです。